

# 京都大学記者クラブ加盟の報道機関のみなさま

2018年7月12日

## 21世紀に吉田寮を活かす元寮生の会

京都大学吉田寮の卒寮生でつくる「21世紀に吉田寮を活かす元寮生の会」理事一同が6月22日に山極壽一総長、川添信介理事宛てに提出した「京都大学学生寄宿舍吉田寮の保存活用を求める要請書」につきまして、経緯を報告させていただきます。

7月9日に京大教育推進・学生支援部厚生課より電話で返答がありましたが、あらためて面会した上で返答を求め、本日午後2時半より、厚生課に理事が出向いて返答を求めました。

今回行いました要請は、以下の3点です。

1) 「吉田寮生の安全確保についての基本方針」の再検討 2) 要請書の趣旨を元寮生の会より直接説明する機会の設定 3) 7月6日までの文書回答

窓口では厚生課長補佐が対応し、理事に対して口頭で「回答できない」とした上で、「要請書には大学としてすべて回答しているわけではない」「(回答できないのは)大学としての判断」「川添理事は読んでいると思う」「山極総長には渡されていると思う」とし、誰がどのような場で判断したのか明言を避けたうえで、回答しない理由については職責がないとして、一切答えませんでした。

課長が説明せよとの求めを無視し、不誠実な対応に終始していたため、その場であらためて1) 回答をしない理由について説明せよ 2) 大学のどのような組織、部署で判断をしたか明らかにせよ 3) 川添理事が要請書を読んだかどうか確認せよ 4) 山極総長が読んだか確認せよ 5) 法人文書として受け取ったかどうか説明せよ の5点について、回答を求めました。課長補佐は「回答は約束できないが、上に伝える」としました。

吉田寮の現状と今後については、学内や卒寮生にとどまらず、広く社会から関心が寄せられています。

川添理事は京大のホームページで、理事としてのメッセージの最後に「吉田寮老朽化の問題」に触れた上で、「以上の諸課題に対して、学内関連部局の皆さまとの意思疎通と連携を図ることはもちろん、学外の方々のご意見も伺いながら、一步でも前進できますように微力を尽くしたいと思っています。ご協力のほどあらためてお願いします」と記されております。この間の対応は、「学外の方々のご意見も伺いながら」ことを進めるとの川添理事の言葉に反するものであり、残念というほかはありません。

京大当局と吉田寮自治会の交渉が前向きに進むことを切に願いつつ、元寮生の会としても京大に対して基本方針の再検討を求め、今後さらに文書の提出などを検討していきます。